

# 叱り方のいろく

天野誠齋

## □叱り方

子供を矯正さるゝとき、其の叱り方の善いものと悪いのとは、子供の將來に、いろく影響を與へますが、少くとも次ぎのやうな叱り方は親として注意しなければなりません、詰り之れは、よくあいい叱り方であります

## □お天氣叱り

機嫌のよい時には、大抵の悪い事は、笑つて見のがし機嫌のよくない時には、少しの事でも、手ひどく叱る、夫れを『お天氣叱り』といひます。

## □無理叱り

子供を大人と同じやうに考へて、何事も大人の通りにあらぬと叱る、これを『無理叱り方』と云

ひます、子供はどこ迄も子供です。

## □さきぎめ叱り

子供が大勢あると。兄弟争ひをして訴へて來ます、そのとき、どの子供が悪いかをよく調べもせず、いつもあの子供がわるいから、又あの子供だと、始めからきめてかゝつて、誰々が悪いと叱りつけます、これは『先きぎめ叱り』と云つて、きめられた子供こそ迷惑千萬です。

## □皮肉叱り

子供がどりはづして、茶碗などを壊したとします……此時に子供があやまつて來ると『あなたはよくおやりだよ、お利巧ですよ、よく落付いて居ますからネ』

おどく云ひます、誠に『皮肉を叱り方』でありま  
す、子供は斯んな風に叱られて、どんなに考へる  
でありまじやうか。

□雷 叱り

子供が何心なく、わるい事をして居ます、する  
と霹靂一聲、かみなりの落ちたやうに

『なんだお前は』

おどく叱りつけます、子供は何を叱られたのやら  
なせ叱られたのやら、一向譯がわからず、唯眼の  
玉をばちくり……よそで聞いて居ても冷汗が出  
ます。

□三百 叱り

一から十まで理くつづめで、三百代言よろしく  
の口上、膝づめのお小言、これから寧ろ監獄へで  
も入れたがよからう、子供はさう理窟づめで、ゆ  
くものではありませんものを……。

□追ひかけ叱り

叱り方いろく

父が叱る、母が叱る、さうかと思ふと、おぢい  
さんも、おばあさんも、兄も姉も、入りかはり、  
立ちかはり包圍攻撃です、之れでは子供も立往生  
でしやう。

□手 引 叱り

子供が壁に墨をぬります

『マア壁だから宜かつた、屏風へでもぬつたら大  
變だつた』

とお小言、子供は

『では屏風へもやつて見やうか』

と之れでは悪事の『手引き叱り』になります

□邪 推 叱り

子供は深い考へもなく、ちよつと悪い事をしま  
す、夫れをいろくど邪推して

『お前は斯う思つてしたらう』

『あゝ考へてやつたらう』

お蔭さまで、子供もだんく邪推深い人になります。

□人前 叱り

お客様の前でお菓子をつまむと

『なせそんな事をしますか、お行儀が悪いネ』と叱られます。

子供はいつもの通りだと思つて、ねだります、又叱られます、とうとう泣きだして仕舞う、お客様こそ、いゝ迷惑、ふだんの躰けが肝心。

□おどし 叱り

『そんな事をするぞ、おまはりさんが來ますよ』

『おばけが來ますよ』とおきまりのおどし文句、ところでついぞ夫れが來たことがない、これでは脅しは全く無効にありません。

□叱り 方注意

一、上にたつ人々の手本がよくて、小言をいはずに濟めば極く上に。

二、些細なことは注意にとゞめ、叱ることは、た

ま／＼がよし。

三、叱るときには、よくその事實を正し、正當に叱るがよし

四、叱るときには、しつかり叱り、なまじなことはせぬがよし。

五、わるい事を叱ると共に、よいところも擧げて子供の伸るところをふさがぬがよし。

六、叱りばあしは大禁物なり、叱つたことは、必ず其の後に監督するがよし。

七、叱りかたは餘りくどくなく、ふるまづを成可くかつぎださぬがよし。

八、悪いのは其の事、子供はどこまでも信用し、學教するがよし。

九、叱るときは、公平にして、片手たちのことをせぬがよし。

十、叱るときには、其の時と、場合と子供の性質とを考へて、無謀の事をせぬがよし。

叱るよりは邪魔物を片付けよ

子供は盛んに運動して、身体の抵抗力を強くし  
以つて體力を鍛練させることが必要であります。

『健全なる精神は、健全なる身體に陥る』

と云ふが、實際其通りだと思ひますから、子供に  
は十分に運動をさせ、大抵の悪戯なら、大目に見  
ておいて、間接に保護するやうにしたいのです。

最も運動遊戯といつても、子供には子供らしい  
興味があれば厭きて仕舞ひますから、親は別段  
干渉せぬやうにしたいものです。殊に男兒は、遠  
慮なく、盛んに相撲を取るが、何時も疊の上で、  
ドシ／＼取つて居ます。

さうすると

『家のなかで相撲を取つてはならぬ』

と叱る親御さんもあるやうですが、大抵の事なら  
相撲位は取らせるのがよいと思ひます。

最も此の時には、障子は全部明け放つて。假令  
少し位埃が出て、空氣が交換するに差支へない  
やうにして置けば、埃を吸つて害になるやうな心  
配はありませんまい。

叱り方いろ／＼

相撲を取るために疊は一年に二回位取換へたと

ころで、ドシ／＼相撲取られて破れて仕舞ひます、  
然し相撲は、子供がらも、男性の氣象を發揮す  
るもので、夫れに身體四肢の運動には申分はない  
から、疊の破れ位は、彼是言つては居られますま  
い、子供の成育上有益なことなら、多少の犠牲を  
拂うのは當然のことである故、斯んを事を嚴重に  
小言を云つて止めたときには、却つて潑瀾たる子  
供の意氣を萎縮させ、鍛へなければならぬ身體も  
遂に柔弱にさせなければならぬことにあります。

子供が相撲でも取つて、疊が早く破れる位なら  
この子供は病身な虚弱兒ではかいから、親として  
は誠に喜ぶべきことです、愛兒が病身で後れず薬  
よ、醫者よと心配することを、常に親が考へましたら  
『家のなかで相撲を取つてはならぬ』  
と叱付けるよりも

『寧ろ怪我でもしさうお邪魔物を、急いで取片付  
けるやうにしたい』

之れは子供のために希望するところです。